

## 平成30年度 第2回習志野市公民館運営審議会会議録(要旨)

1. 日時 平成30年8月28日(火)午後2時～4時

2. 場所 市庁舎 2階 2-1. 2

3. 出席者氏名

出席委員 : 内山委員、齋藤委員、山地委員、後藤委員、川松委員、片岡委員

出席職員 : 齊藤生涯学習部長、岡村生涯学習部次長、奥井生涯学習部副参事、  
中村生涯学習部主幹

寄主菊田公民館長、長島大久保公民館長、松本屋敷公民館長、  
小久保実花公民館長、伊東袖ヶ浦公民館長、妹川谷津公民館長、  
藤崎新習志野公民館長

傍聴者 : なし

4. 会議内容

第1 公民館運営審議会会長 挨拶

第2 会議録署名委員の指名

会長より後藤委員、川松委員を指名

第3 審議

(1)これからの習志野市公民館のあり方と運営について

第4 報告

(1)平成30年習志野市議会第2回定例会一般質問について

第5 その他(事務連絡等)

閉会

第4 報告

(1)平成30年習志野市議会第2回定例会一般質問について

菊田公民館長 : 第2回定例会(平成30年5月30日から6月26日まで開催)における、公民館に係る一般質問として主に①予約方法について、②公民館運営審議会について、③大久保地区公共施設再生事業の運営について、の三つがあった。

まず、予約方法について「パソコンを操作できない人はどうするのか」という質問があった。これに対して、市民の利便性を図るため、パソコン・スマートフォン等による施設の予約システムを導入する。持っていない人は総合案内サービスカウンターに予約のパソコンを設置し、受付担当者が必要に応じて操作方法等を説明するなどの対応をしていくと答弁した。

次に、公民館運営審議会には、「民間事業者も参加した方がよいのでは」という質問があった。これに対して、公民館運営審議会は、館長の諮問機関であり、各公民館の事業や運営に関する意見をもらっている。リニューアルする公民館では、市と民間が役割分担をしているの

で、連携を密にして、市と民間でしっかり共有したいと答弁した。

最後に、大久保地区公共施設再生事業において、「生涯学習の拠点としてどのように運営していくのか」という質問があった。これに対して、エリア内の多様な施設を官民連携のもと、一体的な運営をしていく。公民館、図書館では、それぞれの事業推進の司令塔の役割を担う中央公民館、中央図書館の機能をもたせ、生涯学習の拠点として充実させていくことを検討していると答弁した。

また、「市民の声を聴いているのか、どう運営に反映させるのか」という質問に対しては、機能集約施設でさまざまな意見を伺っているところで、今後も教育委員会議や社会教育委員会議、公民館運営審議会、サークル連絡協議会、利用者アンケートなど、可能な限り運営事業に反映させていくと答弁した。

## 【質 疑】

川松委員：新しい大久保公民館の予約に関する答弁については、パソコン・スマートフォン等がなければ、公民館へ行くしかないと言っているように聞こえる。電話対応等を検討いただくことはできないか。

大久保公民館長：現在、公民館使用の全ての手続きは、窓口に来館して行っている。インターネット手続きの導入により、全ての手続きで窓口に来る必要がなくなる。また、キャンセルは電話でできることとなる。

## 第3 審 議

### (1)これからの習志野市公民館のあり方と運営について

菊田公民館長が、公民館長会が提案した「習志野市公民館の歴史と今後の方向性」について、別紙資料を基に説明した。

齋藤会長：本日は草野委員が欠席ですが、これまでの習志野市の公民館の歴史を踏まえた中で、先生からの意見を別紙のとおり頂戴しているので事務局から説明願いたい。

菊田公民館長：草野委員から頂戴した大久保地区公共移設再生事業を契機とした、これからの習志野市公民館のあり方と運営についての意見を説明。

今回いただいた諮問について、これまでの習志野市公民館の歴史を踏まえた中で、私(草野委員)の意見を別紙のようにまとめたので、齋藤会長及び事務局に提出する。

大久保地区公共施設再生事業により、屋敷公民館が統廃合されることについては残念に思う。地域ごとに蓄積したこれまでの歴史、文化、人々とのつながりを無駄にすることなく、今後の公民館活動を引き継いでいくうえで、習志野市が今後めざそうとする中央公民館のあり方は非常に重要になってくる。

公民館は地域に開かれた学校であり、さまざまな世代が交流する地域の拠点であり、地域

の歴史や文化を受け継ぎながら地域づくりをする。そして、その活動をコーディネートするのが、公民館の役割。また、核家族化や一人親世帯、共働き世帯の増加等、子どもたちを地域で支える活動が重要視されており、今後の新しい役割として、地域と学校の連携強化、学校支援や家庭教育支援なども求められている。そこで、新たに大久保地区にリニューアルされる公民館の「中央公民館」としての役割を、大きく3点に整理した。

## 1. 新たに大久保地区にリニューアルされる公民館の「中央公民館」としての役割

### (1) 役割機能

#### ① 公民館全体の指揮（事業計画策定、地区館の事業運営の指導・支援）

習志野市の公民館では、毎年度、各館で工夫を凝らした事業に取り組んでいる。

今後は、中央公民館が全体を統括、調整する機能を持ち、開催時期や学習プログラム策定や運営支援を行うことにより、全館の事業はさらに充実したものになる。

#### ② とりまとめ館（菊田公民館）の機能の移管

#### ③ 複合施設の利点を生かした生涯学習の推進（連携・融合）

大久保地区公共施設再生事業により、ホール・図書館やスポーツ施設なども整備されることから、他施設との連携事業も期待される。

### (2) 職員配置と研修

#### ① 専門職員を配置し、事業を実践するとともに、地区館への学習プログラム編成や事業実践の指導を行う。（研修システムの構築）

#### ② 公民館職員の指導・育成

(1)の役割を担ううえで、職員の配置は特に重要。社会教育主事を配置し、大久保や屋敷エリアの公民館としての事業を継続することに加え、全館職員への指導や職員研修などに取り組む。

また、公民館職員としての専門性を高めることを目的とした研修会は、県や国でも開かれている。さまざまな研修に参加できる環境づくりを図る。

このような研修機会の充実により、新たに公民館に配置される行政から異動してきた職員も資質向上を図ることができる。

### (3) 指定管理者制度による運営を行う公民館の監理

#### ① 指定管理の評価・検証

習志野市は指定管理者制度を導入した先進市であり、成功例でもある。

今後も、制度に頼りすぎず、評価検証をしっかりと行う。

#### ② 他市の指定管理の情報収集

最後に、中央公民館として取り組んでいただきたい事業を挙げる。

## 2. 事業

#### ① 6領域事業の充実（大久保公民館、屋敷公民館の事業の継承と見直し）

#### ② 時代に対応した事業（産業・福祉・教育などの地域・行政課題）

社会的に弱い立場におかれている人達、引きこもり、失業者への社会復帰のための事業。

### ③リカレント教育

社会変化など、必要に応じて働きながら学ぶ活動を支援。

### ④地域文化振興

郷土愛の醸成を図り、地域の伝統文化を再認識しながらまちづくりにつなげる。

- ・地域伝統文化の創造と継承
- ・子ども、青年の人間形成と地域文化振興
- ・地域共同性の意識醸成

## 【質 疑】

川松委員：諮問に対する回答の今後のスケジュールはどのようになっているのか。

大久保公民館館長：本日意見をいただき、次回11月予定の公民館運営審議会で答申案を示して再度確認を行い、最終的に会長に一任いただき決定する。

川松委員：三項目お話したい。

一つは、中央公民館の事業などの調整役についてである。それぞれ文化の違う公民館がある中で、地域のための提案に予算をつけない可能性や、時間が経つと統制だけが前にでてくる恐れがある。そのことをどう考えているのか。

二つ目は、地域や防災の拠点としての役割についてである。高齢者は学校にあまり縁がないため、真っ先にかけこむのは公民館である。避難場所として対応するのもよいのではないか。また、居住地域の被害状況などを公民館で把握できるとよい。

三つ目は、祝日開館についてである。共働き世帯が増えているため、祝日開館の検討をお願いしたい。

菊田公民館長：まず、中央公民館の調整役に関しては、各地域の公民館をベースにして事業をすることは当然と考えている。それ以外の、教育基本計画や市の方針としてやらなければならない事業等の調整を考えている。

次に、避難場所については、大勢の居住空間の確保が難しい。今後学校体育館だけでは間に合わなくなる場合には、公民館も避難所になる可能性もある。また、公民館から地域住民に発信できる体制がとれればよいと思うので、危機管理課に提案して今後検討したい。

三つ目の開館日の拡大については、新習志野公民館ですでに祝日開館しており、中央公民館は祝日開館の予定である。事業展開が定着すれば他の公民館にも広がっていくと考える。

片岡委員：要望として、中央公民館が担う役割に応じた、人員構成、配置が必要と考える。

また、地域の高齢者や団塊の世代は定年延長をして、平日は働いている人が多いと思う。肩書だけで実質は活動できない人が多い。これらの世代をどのように公民館に結び付けようと

考えているのか。

菊田公民館長： 人員配置については、社会教育主事や経験者の人事配置を要望していく。団塊の世代の方たちの得意分野を生せる講座やサークル、イベントの実施などが考えられる。来てもらうための講座の展開が必要であり、課題であると考えている。

山路委員： 市民カレッジは今どうなっているのか。地域の活動をする単位制があったようだが、いかがか。

菊田公民館長： 現在は単位制ではない。

後藤委員： 資料の確認だが、「②中央公民館(司令塔)としての役割」については菊田公民館が行っていない新たな活動ととらえてよいのか。

菊田公民館長： そのとおり。

齋藤会長： 現在の公民館職員の配置を見ると、経験豊富な職員が減っていると感じる。職員は2名配置されているが数年で異動してしまい、臨時的任用職員の方が経験豊富なケースがある。正規職員が経験を積むことが大事である。経験のある職員同士の横のつながりをもってほしい。司令塔というならば、信頼される正規職員を厚くしていただくことを要望する。市の直営公民館が一館になったらさらに厳しくなる。

片岡委員： 大久保地区公共施設再生において、中央公民館に統合される施設の事業やサークルの具体的な調整スケジュールはどのようになるのか。

大久保公民館長： サークルの統廃合はなく、平成31年12月中に利用調整会議を行い、活動時間等を決定していく。事業については、可能なものは統合していくが、寿学級や地区学習圏会議などそれぞれの地区のものは、活動場所やそれぞれの団体の意向を聞きつつ、その活動について検討していく。

川松委員： 屋敷公民館やゆうゆう館の建物の活用方法は決まっているのか。埋蔵文化財の保管・展示場所として活用をはかってはいかがか。

社会教育課長： 今後の活用方法は決まっていない。教育委員会としては、活用についての意見を市の中で述べていきたいと考える。

齋藤会長： それぞれ公民館の歴史がある。屋敷公民館にしても、拠点が多少ずれても地域の皆さんが元気に盛り上がるような活動ができたらと思う。

山路委員：中央公民館に求める役割(要求)が、多すぎるように感じる。実現できる役割としなくてよいのか。

菊田公民館長：現実に可能性があるものにまとめたい。会長、副会長と相談し項目や具体的な中身の整理をして提案していく。

齋藤会長：一館減ってしまうが、六公民館でも今の状況を維持、あるいはそれ以上のことをやってもらえるよう考えていただければ有難い。

内山委員：今後の公民館に求められるものはまさに学校にも当てはまる。地域の拠点、主体的参画は学校現場も同様であり、周知が課題である。公民館活動を子どもたちがどの程度理解しているか、コーディネートしていく必要がある。利用者がアイデアを出すことが必要だと思う。

川松委員：公民館事業を広く利用してもらう手段について、どのように考えているのか。例としては各公民館でやっている文化祭は地域の人をいかにまきこむかということがポイントかと思う。チャリティバザーもやっているが、交流の周知の仕方等が難しい。

菊田公民館長：大久保の新たな施設においては、公民館、ホール、図書館やスポーツ施設と様々な施設があることから連携した事業を企画検討していきたい。そうすることで相乗効果が生まれ、いろいろな方々が交流でき、またこのエリアにきてもらえるのではないかと考える。

齋藤会長：ワークショップの中で若い人たちはいろいろなアイデアをもっている。新施設にさまざまな市民を参加させるようにコーディネートできたらよい。夢を現実にするための答申になるようにしたい。本日の皆さんの意見、館長の提案、草野委員の意見等をふまえ、次回までにたたき台をつくっていきたい。

#### (5)その他

菊田公民館長：第3回公民館運営審議会の開催日程は、11月の予定である。

屋敷公民館長より、第70回千葉県公民館研究大会について、別紙大会開催要項を説明した。

屋敷公民館長：参加者は、齋藤会長、川松副会長は代表としてお願いしたい。その他、お声がけするのでよろしくお願いしたい。(会長・副会長・後藤委員が出席予定)